



Profile

「世界中の人と仲良くなる！」と信じ、65カ国を駆ける。ベストセラ『ガンジス河でバタフライ』は、ドラマ化もされ話題に。『ドライ・ラマに恋して』『純情ヨーロッパ』等、著書多数。世界中の魅力を伝える、ラブ&ピースな“地球の広報”として、全国での講演、メディア出演、大学講師など、幅広く活動中。

● 自著を語る ● BOOK

『生きるって、なに?』



Terubooks (テルブックス) 540円
URL: <https://www.takanoteruko.com>

地球の広報、旅人、エッセイスト

たかのてるこ / Teruko Takano

人はみんな、生きることを
楽しむために生まれてきた!

生きる意味が分からない

本書が生まれたきっかけは、大学の教え子から悩みを打ち明けられた会話でした。私自身、学生時代は「生きる意味」が分からず悶々としていたので、彼の悩みが他人事ではなくて、そこで、彼が時々読み返して、前向きな心が湧いてくるような文章を書きたいと思ったんです。

考えてみれば、学校で「知識は教わりますが、「生きるための知恵」は、誰にも教えてもらえなかった。私もそうでしたが、「生きる意味」をちゃんと考えたことがある人は、殆どいないのではないのでしょうか。生きる上で、一番大事なことに!

「鳥の目」を持って生きる

20歳のとき、勇気を振り絞って海外ひとり旅に出て、初めて「自分の欠点は全部、長所なんだ!」と思うことができるようになりました。方向オンチだったからこそ、道を教えてくれるような優しい人に出会えたんだ。しかも、宿が見つからない私に、

食事を分け与え、家に泊めてくれる人にも出会えるなんて…。

この写真絵本に登場する世界中の人たちのおかげで、人類全体に共通する優しい気持ちに触れることができ、私の中に人を信頼する気持ちが生まれました。そして、今、自分が生きている世界だけが全てではないんだと気づくことができました。

同時に、目の前のことだけに必死になる「虫の目」しか持っていないなかった私に、「過去の何かひとつでも欠けていたら、今の自分にはたどり着かなかった」という、人生を俯瞰する「鳥の目」を持たせてくれました。

でもそれは、人類の歴史も同じではないのでしょうか。つい19世紀まで、教育を受けられる子どもはわずか、飢饉が起きると奉公に出されるような時代でした。生まれながらの差別や格差が当たり前だった時代から、人類はようやく「人権」という概念を手に入れ、差別や格差のない世界を作ろうとしているところなのです。そう考えると、教育を受ける権利も、参政権も、

保険も、福祉も、今私たちが享受している権利は全て、先人たちの努力の賜物なんだ! と思えて、胸がいっぱいになります。

私たちは毎日、進化中

毎日、ネガティブなニュースが飛び込んでくるので、世界は悪くなる一方だと思いがちですが、そういうムードが蔓延すると、若い世代が未来に希望が持てなくなってしまう。

私たちは毎日、地球全体で、現在進行形の進化の途中で、発展途上にあります。すべての物は、「こういう出来事を繰り返さないために、子どもにどんな教育をして、どんな社会になれば、みんなが幸せになれるだろうか?」と向き合うために存在していると思います。

だからこそ、学校の先生には、この本に込めた思い、「人はみんな、生きることを楽しむために生まれてきたんだよ」「まだまだ問題はあれけれど、世界はどんどんよくなっていくんだよ」と、絶えず子どもたちに語りかけてほしいと願ってやみません。